



路政僧

案とを對照して之を是認したことを想はゞ、夫れは私の屈辱的讓歩を物語るもの。屈辱的讓歩、之も亦世界平和の爲に忍ぶとしても、事件の原動力たる出兵の國民に對する現政府の責任は依然残存する筈、後日に残された共同委員會に於て其の責を履行することを忘るゝ勿れ。

國民政府、外國人は國際公法に照し責任を以て保護すと言ふ、併し其の言の漏かざる間に武漢派と鬭争を行ふ、鬭争に依る外國人の保護、言ふに易く行ふに難かるべし、支那一流の言辭の美を捨て愛國の名に隠れた排日運動を取締る誠意を實現するが可い。

▽ △

濟南事件、交渉半歲に亘り漸くにして解決す、日支兩國政府及國民友誼増進の爲に不快の感情を一掃して兩國々々の益敦厚ならむことを聲明す、唇齒輔車の自然的關連を持する兩國の國交からして當然事、吾人之を衷心より祝

福し再び事件を繰返さざらむことを望むや切。
併し事件の解決を慶賀すること、夫れは政府の對支政策の成功を賞揚するのでは無い、我國の要求した陳謝、責任者所罰、損害賠償乃至は將來の保障は、何に依つて之を得んとする、客歲七月強硬に主張した提案と今回の解決

▽ △

波瀾を極めた第五十六議會終了、之を決算すると兩院を通過したものの豫算案十一決算二政府提出法律案六十五、數に於て相當の成績を收む、併し政府の重要政策に屬する兩稅委讓案、鐵道敷設法改正案、肥料管理法案、自作農創設維持助勢法案等々と八法案は何れも貴族院に於て握り潰しの厄に遭ふ、過去の内閣に於て會て觀ざる不成績と可言、政府の面目零。

政府をして此く創痍滿身の態たらしめたのは、國民代表の衆議院に非ずし、貴族院であつた、下院多數の可決したものを上院の反政府感に依つて支配し、政府と衆議院の威信地に墜つ、併し反政府感情を以て卑怯陰險にも法案に對する贊否を決せず、故意に審議を

怠りたる貴族院の態度、二院制度の機能を完ふしたるものと言ふべからず、吾れ立憲政治の爲に之を憂ふ、蓋し民意に依る政治を内閣の責任たらしめながら民意無關心者が之を抑制する、民意の阻止夫れば立憲の常道に反するも、是等が貴院改革の必要ある所以。

議會に於ける朝野兩黨の醜態も亦近時會て觀ざりし所、固より普選法を改正して選舉區を變更せむとする其可否は別問題とするも、政友會新黨俱樂部の言論封じの横車押し民政黨議員の議長席包圍、演壇の占領、速記者席の蹂躪等直接手段を以て開議を阻止したる狂態は、言論を以て争ふべき議會に言論を禁止し暴力を以てする、夫れば議會政治を否認したるものにして言語道

斷の沙汰と可言、之に胚胎して七十餘名の議員が暴力取締法違反として告發せられ、自治すべき議會が司法權の活動に任せられたるが如きは、議員の特權を放棄し議會の威信を失墜したるものにして我立憲史上大汚點を印したるものと言ふべく、之に依り既成兩大政黨の無智が其の聲價を傷けたのは自業自得として看過し得ても、議會政治に對する疑心憂ふべきものあるのとき、此暴舉が國民風教に及ぼす影響の甚大なるものあるを思はゞ兩黨の罪許すべきに非ず。

▽

△

政策を生命とする政黨内閣が、國民に履行を聲明した重要政策の悉くを潰

滅されたのは生命を失つたと同様、殊に貴族院に於て、首相其の人が、輕卒不謹慎其の職責に於て缺くる所ありと彈劾されたのは、致命的の打撃と可言、ことの茲に至つたのも政府の不用意に胚胎する、會て國民に誓約した重要法案は議會前既に作製せられてゐるべき筈なるに拘はらず、其の骨子さへも確定せず閣僚の意見一致せざるが如きは内閣の不統一を顯はすもの、樞府に陳謝し貴族院に諒解を求むるの醜狀、立憲的内閣の行動とは見られぬ、おらが

式を以ては内閣を支持し能はざる所以、現内閣が國民の信頼心より遠ざかつて行くのも當然、内閣の改造乃至は總辭職の傳へらるゝのも輿論の要求と可言。

今と爲つては居握りの口實も無駄、須く憲政の本義に則つて自決するが可い。新黨俱樂部の如き主義政策を辨へざる非似政黨と妥協提携して内閣の改造を目論む如きは、大政黨たる政友會の聲價を、いやが上に傷つくるもの反省を求むるや切。

此機を利用して嗤ふべき中間内閣説傳へらる、議會政治と政黨責任内閣を根幹とする立憲政界に、政黨と無關心な内閣の出現することは立憲政治の逆行、國民は斷じて之を許さざるべく、假令其の陰謀が行はれたにしても往時の特權内閣と同様、其の運命や知るべきのみ、其の妄動を繰返す勿れ。

中間内閣説と相並んで嗤さるゝもの新黨俱樂部の内閣組織、之も亦憲政の

常道に反するものと可評、聽け、本會長水野博士の論に、政黨内閣制が確立すれば二十人や三十人の小黨を作り、政權廻廻しと言ふ曲藝を演ずる餘地が無い、と、至言、併し議會に於て幫間味をしめた新黨の夢想としては無理ならぬこと、知るべし、世は卿等を夫れ程の價値ある政黨としては認してゐない事を。

此く斷すれば政權は民政黨に廻る、民政黨、之も亦政黨として碌なものではない。嗚呼立憲制度確立されて何十年、昭和の御代と爲つても國民の信頼すべき政黨の在らざるを、我が立憲政治の爲に悲しむ。

▽

△

貴院が政府の政策に賛成したか已むなく認められたかは判らないが、兎に角豫算は成立し、産業道路の改良策も認められ、是で我が路政の一部擴張も是認された譯、併し之は現内閣の力ではなく、自動車の發達に伴ふ國民の自然的

要求の結晶に外ならない、従つて豫算實行の爲に必要な諸政策は現内閣の私すべきものでは無い、交通の現状と將來に即して公平に理想的に行政すべきは當然、之が手段として憲政會内閣が無理に廢止した道路會議を再興することに在る、三人寄れば文珠の智慧、國家の大策は衆智を集めて論議研究せしむるに限る、會議費の支出を吝みて大策の實現を輕視するのは、一文吝しみの百知らずの類、憲政會政策の笑はれ

たのも畢竟茲に在る、積極政策を高調する現内閣、之を機會に我が道路政策の改訂を實現せよ。

地方財政の監督官創設、之も豫算通過のお蔭、現政府の採る地方分權乃至は自治權擁護と矛盾する施設と言ふ、地方財政、地方の自治に任ずるのが當然、併し現に破産に頻する自治團體がある、茲に至ることを矯正指導するのは、國家權力を分與した團體に對する國家の爲すべき當然の責務、徒に形式に捉はれて事の善惡を所論する勿れ。

解散の後を受けて成立した東京新市會、市會淨化の期待裡に選舉された議員は、其の數に於て七割の新顔を見る、是等議員に依つて從來屢々繰返された市會の病弊固疾が矯正さるゝとは市民

の祈願であつた、が併し初市會に於ける議長の選舉は依然議場外に於ける各派の策動乃至密謀に依つて行はれ市民の所望を裏切る、東京市會の淨化、百年河清を俟つの類か。

併し此一事に依つて直に將來を卜するの或は無理、否な吾人は市民の絶望を禁ず、這般のことを非難した市民の聲に聽いて公約した市政の淨化に力め行き詰れる財政、紊亂せる市政の改革は卿等の選舉せむとする新市長如何に依つて運命附けらるゝ筈、議長選舉以上の重大事、英國式の市長は我が東京に要らぬ、爵位や貴祿は舊式政治の遺物に過ぎない、人格手腕を用途に模範的市長を選べ、夫れが卿等の責任。